

令和6年度 第4回 松江市社会福祉審議会議事要旨

◆日時：令和7年2月14日（金）15:00～16:20

◆会場：松江市本庁舎3階 第二常任委員会室

◆出席者

（委員）

安達和弘委員、安達久行委員、犬山正博委員、岩成俊治委員、加川充浩委員、川谷一寛委員、佐々木滋子委員、須山佐智美委員、瀧山亜紀子委員、竹田尚子委員、武田信子委員、長岡和志委員、長澤孝之委員、横山洋子委員（50音順）

〈欠席：岡田昌治委員、貝谷 昭委員、榊諒委員、松嶋永治委員〉

（事務局）

[松江市]

松原健康福祉部長、岸本健康福祉部次長、玉木こども子育て部長、峯こども子育て部次長、石倉家庭相談課長、川島障がい者福祉課長、狩野生活福祉課長、井上介護保険課長、岸本健康推進課長、高木防災危機管理課長、池田こども政策課長、毛利子育て給付課長、江藤住宅政策課長、山崎交通政策課長、小西市民生活課長、池田人権男女共同参画課長、後藤学校教育課長、宍道発達・教育相談支援センター調整官、岡本生涯学習課企画調整係長、荒川青少年支援室主任、事務局職員

[松江市社会福祉協議会]

兼折専務理事、布野総務課長、池田地域福祉課長、雨川地域包括ケア推進課長、安藤生活支援課長、事務局職員

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 議事

（1）松江市社会福祉審議会専門分科会における審議事項

〈意見なし〉

（2）第6次松江市地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）へのご意見と対応

〈意見なし〉

（3）第6次松江市地域福祉計画・地域福祉活動計画（最終案）

——質疑応答——

委員長：パブリックコメントが0件なのはなぜか。

岸本次長：実施期間としては十分な期間がとれたが、年末年始の時期であることや、HP等で広報していたが目につきにくかったかと思われる。工夫が必要とは思いますが、現状、不足はなかったと考えている。

委員長：別の自治体で同じような計画策定したが、そこは20件ほどパブリックコメントがあった。そこは、広報で紙媒体を載せたのが奏功したとしている。ただ、広報に載せるのもなかなか難しい面があるので、他にも色々な工夫が必要と思う。

竹田委員：パブリックコメントに関しては、委員としての責任もあると反省している。パブリックコメントについて、SNSは使わなかったのか？

概要版について、

- ①内側の左上の6行の文章がおかしい。
- ②「あったか元気便」という表記だけで伝わるのか？
- ③市が全て取り組んでいるような印象を受ける。
- ④「おたがいさま」「応援者」という表記だけで伝わるのか？
- ⑤人のイラストが大きくスペースがもったいない。正確なキャプションを充実させるべき。

岸本次長：パブリックコメントについて、SNSは使用しなかった。反省点として今後活かしていきたい。

概要版について、

①第1次計画策定当時のメンバーが、「地域福祉とは何か」について話し合った。その結果、この文章が作成されて、これまで改正を重ねている。ご指摘の通り、洗練されていないとお言葉をいただいたが、この内容は大切にしたいと考えている。

②③④⑤これらについては、工夫していきたい。スケジュールが詰まっているので、委員長と事務局で相談してご一任いただき、可能な修正をかける。

「自分でもできそうなこと」の内容については、ワークショップで出てきた内容をなるべくそのまま使用している。出来る範囲での修正をしたい。いずれもパブリックコメントにかけたものなので、あまり大きく変えることが出来ないことは、ご了承いただければと思う。

委員長：①そもそも日本語がおかしい。直した方が良いと思う。

副委員長：文字をもう少し大きくするか、文字の色を濃くしていただきたい。

犬山委員：①PI5、総合計画の目標例について、例えば「健康寿命」の意味は伝わるのか。注記として、各目標例の説明を追加してほしい。

②P2、「高齢者だけでなく～」という文言に違和感がある。この書き方の理由は何か。

③P21、「独居高齢者だけでなく～」という文言について、並列に記載したらどうか。

④P23の施策1、「支援を行う」とはどのような活動を想定しているか。

岸本次長：②上段にある「地域包括支援センター」は本来、高齢者向けの制度となっている。ここにかかっているので、「高齢者だけでなく～」と記載している。併せて、CSWや専門員など、広く相談を受け付ける体制を整えている。

③昨年11月頃に国の推計機関で独居高齢者の割合が出された。そういった状況の中で必要な支援を行っていく必要があるのではないかという問題提起となっている。これが問題になっているというキーワードではないが、このような状況をふまえた表現である。

このあたりの表現については、このままにしておきたいと考えている。

門脇係長：①健康寿命については説明を追記する。他の目標例については、市民アンケートの結果となっているので、その旨を記載できるよう工夫する。

②「支援」については、ふくしなんでも相談所、民生委員などにより、声を拾い上げて適切な制度に結びつける支援を行うことを想定している。来年度以降、新たな施策も出てくると思われるので、次年度においても事業説明をさせていただく。

瀧山委員：この計画作成にあたって、応援者さんに紹介したが、スマホのネットで確認したところ、画面が小さく読みにくい。分かりにくいと見るのをやめてしまう。また、残念ながら福祉計画に興味がない人が多い。計画書はどこにあるの？そんなものあったのか、という認識が現状。

委員長：次年度以降の評価については、実際の取組みについて、皆さんにも評価してもらえるような形に出来れば良いのではと思う。委員会の中でも実際の事例など提示して、地域福祉は必要だ、という意識を醸成したい。

川谷委員：自治会がコロナ禍から非常に弱体化した。高齢者も再雇用で働き続けるため、役員のなり手がいない。若い人に興味をもってもらい、働きながらも自治会活動ができるような体制を整える必要がある。市の職員は率先して自治会の役員を担うなど、トップダウンで何か出来ないだろうか、などと考えている。

横山委員：福祉計画の冊子はどこに置く？概要版はどのように市民に啓発される？

岸本次長：冊子の方は、予算の関係があり、配布先は限られる。公民館などの関係機関に配布する。冊子の確認は、基本的にPDFでPC上で見ていただくのが良いと思う。概要版についても出力可能な状態で公開しながら、出前講座などで紹介できればと思う。

横山委員：美保関介護支援センターが3月末で閉鎖される。その車を利用した買い物支援ツアーに80歳以上の方が利用されているが、閉鎖になったらどうなるのかという不安を抱いている。美保関はデイサービスも1箇所しかない。

高齢者が多く不安が増えているので、この状況に対応いただきたいと思う。

池田地域福祉課長：買い物できない状況については、地域の方と意見交換をさせていただいて、今後の事業の展開について考えていきたい。

安達委員：パブリックコメントが0件だったことについて、委員としてどこまで発信して良いのか判断できなかったため、ご助言いただきたい。地域福祉に関してSNSも利用しながら情報発信していきたい。

こども食堂の数は増えているが、運営に困っているこども食堂もある。今後、各こども食堂の運営を持続可能なものにできるか考えている。アドバイスをいただきたい。

池田こども政策課長：持続可能な運営には、施設や食材の調達が欠かせない。できる限りの情報提供や、プレイヤーの支援も社協とともに取り組みたいと考えている。

安達委員：他の団体とも手を結びながら活動できれば、良い地域づくりができるのではないかな。

岩成委員：高齢化につれて地域の力は落ちていると感じる。色々工夫しながら地域活動を行っているが、今後もなかなか難しい面がある。共助の力を使ってまちづくりが必要だと思うが、自助・共助・公助の中で、共助の力が落ちてくると、公助が重要になってくるのではないかな。地域力が落ちているところは別途支援が必要である。そういった部分も検討していただきたい。

4. その他

5. 閉会